



あいさつ（県森林企画課：村田課長）



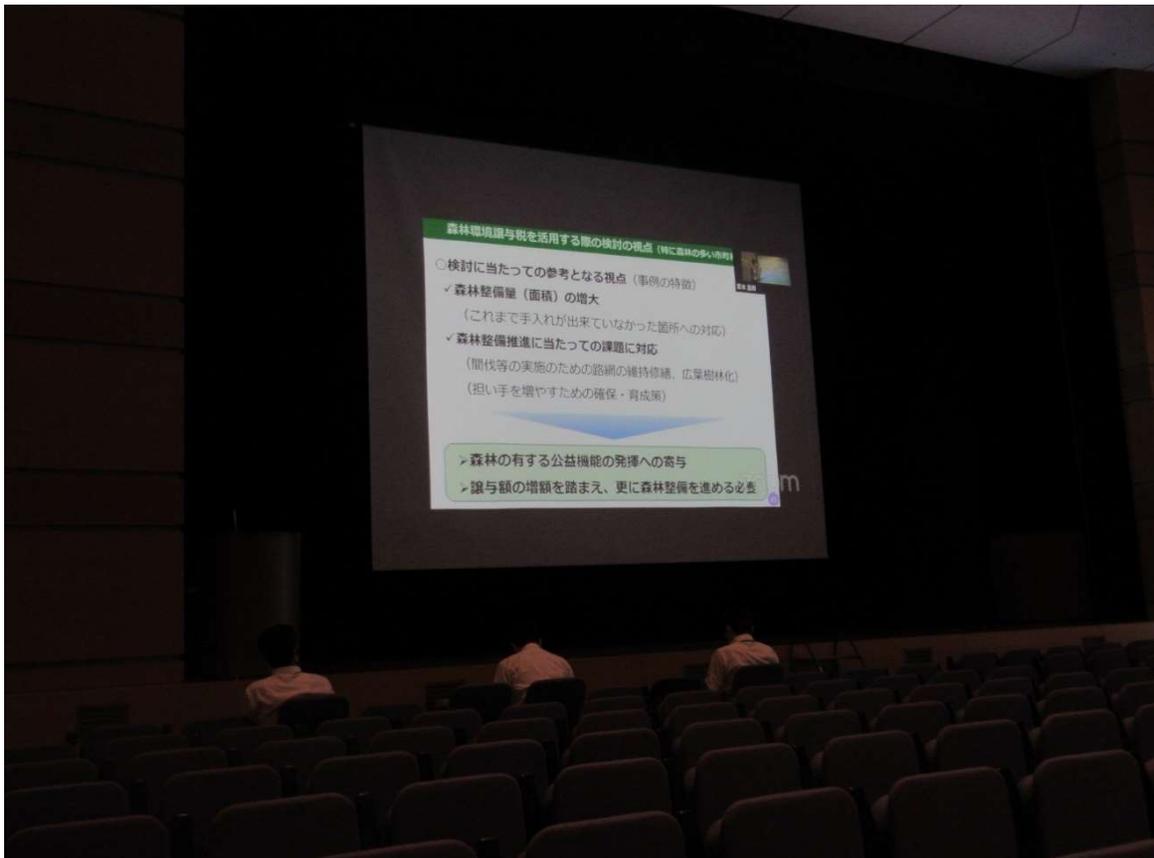
あいさつ（やまぐち農林振興公社：深田専務理事）



研修会場の多目的ホール（コロナ対策：正面から右）



研修会場の多目的ホール（コロナ対策：正面から左）



研修1 森林経営管理制度について（リモート講義／録画配信）



研修1 森林経営管理制度について（リモート講義／録画配信）

2. 準備③ 優先順位、中長期スケジュールの優先順位をつけましょう

- 効率的・効果的に意向調査を進めるため、意向調査の候補となる森林を一定のエリアに分け優先順位をつけましょう
- 優先順位を決定する際には、都道府県の出先機関、森林総合監理士、森林組合、事業者等と連携するとともに、地域住民の意見を踏まえて検討することが有効です
- 優先順位は、間伐遅れの解消や人工林資源の活用など、地域の実情に応じて決定しましょう
- まずはモデル地区を設定し、優先的に取り組んでみるのも一案です

作業フロー図

Step 1 対象森林をエリア分け

- ・意向調査の候補となる森林を抽出し、整理した森林情報をもとにエリア分けします。
- ・施業の間隔を踏まえ、15年を目安として、管内全域の意向調査を実施することとします。

(エリア分けの例)

- ① 林班単位
- ② 小流域単位
- ③ 集落単位
- ④ 大字単位 等

Step 2 意向調査の優先順位を決定

地域の実情に応じて、優先して意向調査をする森林(区域)を決定し、意向調査の実施時期を計画する。

(優先して意向調査をする森林の例)

- ① 過去10年間施業が行われていない森林
- ② 森林経営計画が策定されていない森林
- ③ 人工林資源が多い(まとまっている)森林
- ④ 林道から近い森林
- ⑤ 森林経営計画が策定されている周辺の森林

〔森林所有者から経営管理を委託したい旨の申出があった森林の周辺も候補として検討〕

2021/6/29 9

研修1 森林経営管理制度について(リモート講義/録画配信)

6. 集積計画策定までの進め方

事務の手引き 窓木 直樹

集積計画案の作成 (法第4条第4項)

- 市町村森林整備計画の位置づけ、法制限の有無等の確認 (標準的な施業の実施時期、推進すべき施業の区域、造林の対象樹種、保安林の指定有無 など)
- 市町村の考え(何年預かるか、市町村自ら管理か、林業経営者に再委託か など)
- 森林所有者の意向(主伐を望むか、間伐を望むか、何年預けたいのか など)

↓

同意取得 (法第4条第5項)

- 森林所有者の同意(確認書【別記様式第6号】への記名・押印、集積計画への押印)
- 関係権利者の同意(集積計画への押印)

↓

境界の明確化(合意形成)も併せて実施

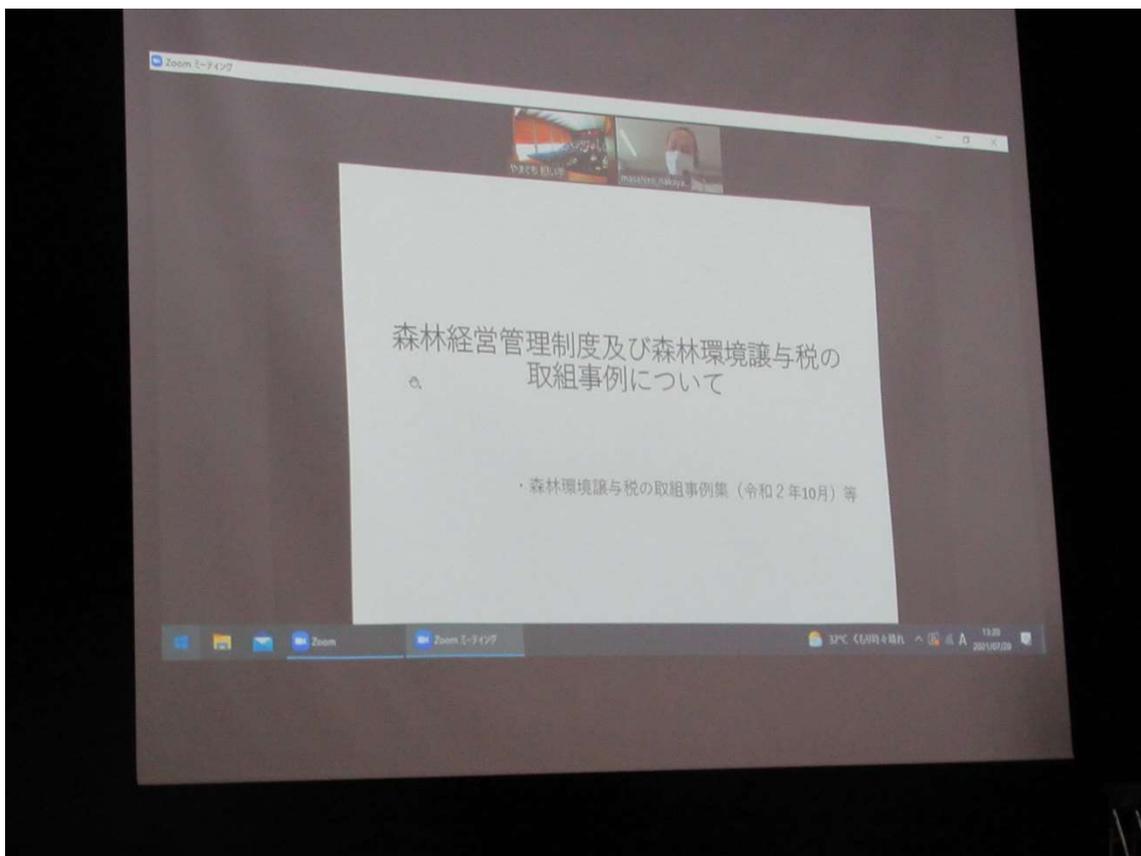
↓

集積計画の公告・縦覧 (法第7条、規則第5条)

- インターネット等を活用し、集積計画を公告・縦覧
- 森林所有者に写しの送付

2021/6/30 23

研修1 森林経営管理制度について(リモート講義/録画配信)



研修2 各種課題事例とその対処方法について（リモート講義／実況配信）



研修2 リモート講義／実況配信（画像上部アップ）



研修2 リモート講義／実況配信（林野庁：中山課長補佐）

秋田県 大館市（森林経営管理制度を活用した森林整備の推進、木育の推進）

- 「秋田スギのふもと、ふたたび」を合い言葉に、本市は森林資源の確保、国産向上など林業を軸とした地域活性化を目標とした林業成長産業化に取り組み、市全体連携の取り組みを高める豊富な森林資源を活用した事業展開を推進している。
- 本市では、森林環境整備と税を活用し、次の2つの事業を軸として取り組む。
 - 森林整備：森林経営管理制度に積極的に取り組み、森林の現状を把握及び所有者不明森林対策に取り組み、概ね20年を掛け所有者の意向を確認しながら整備を進める。
 - 木育推進：木材の良さに対する市民の理解を一層醸成することにより、木材製品の需要拡大につなげるため、無垢材をはじめとする木の良さ、森林整備や地域活性化に果たす木材利用の意義を学ぶ「木育」の実践的な取り組みを推進する。

事業内容

1 森林経営管理事業

- 市内の私有林人工林 234.67ha（242筆、105人）の森林所有者に対し、今後の森林の経営管理の意向を調査。
- 【事業費】10,730千円（課外税、特別交付税）
- 【実績】集積計画策定件数 31件、面積 65.73ha

2 木育推進事業

- ウッドスタート認定優良品開発事業、木育インストラクター養成講座開催事業
- 【事業費】2,037千円（全額課外税）
- 【実績】喜出洋オリジナル認定優良品（木製玩具）開発、木育インストラクター資格取得 40名

事業スキーム

森林所有者への意向調査の実施

```

graph TD
    A[丹波森林 市地区] --> B[調査実施]
    B --> C[調査データ整理]
    C --> D[調査結果報告]
    D --> E[調査結果報告]
    E --> F[調査結果報告]
  
```

工夫・留意した点

- 森林・林業の知識及び所有権関係の理解のための研修を従前の調査を前提とし、市町村森林経営管理事業の結果以外の大部分を留意して実施する方針とした。
- 集積計画に係る集積計画の対応エリアの特定などのシステム的なデータはあるが、そのエリアの中を絞りこみ、効果的な調査の観点から集積計画調査対象の特定を留意して実施している。

基礎データ

①市町村面積	29,810千㎡
②私有林人工林面積（市）	234.67ha
③林業率（市）	78.2%
法人数（市）	74,375人
④森林所有者数（市）	105人

※1：「自治体認定優良品（林産品、H29.3.31現在）」
 ※2：「2021集積計画ワークショップ」 ※3、4：「H21年林業調査」

43

研修2 各種課題事例とその対処方法について（リモート講義／実況配信）

The image shows a Zoom meeting window with a slide displayed. The slide has a green header with the title '森林環境譲与税を活用する際の検討の視点①'. Below the title, there are two main bullet points, each with a checkmark. The first bullet point is '○検討に当たっての参考（事例の特徴）', which includes two sub-points: '✓森林整備量（面積）の増大' (with a sub-note '(これまで手入れが出来ていなかった箇所への対応)') and '✓森林整備推進に当たっての課題に対応' (with sub-notes '(間伐等の実施のための路網の維持修繕、広葉樹林化)' and '(担い手を増やすための確保・育成策)'). A blue arrow points from these points down to a rounded rectangular box containing two points: '➤森林の有する公益機能の発揮への寄与' and '➤譲与額の増額を踏まえ、更に森林整備を進める必要'. The slide number '21' is in the bottom right corner. The Zoom interface at the bottom shows the 'Zoom ミーティング' tab, system tray icons for temperature (33°C) and date (2021/07), and a time of 14:29.

森林環境譲与税を活用する際の検討の視点①

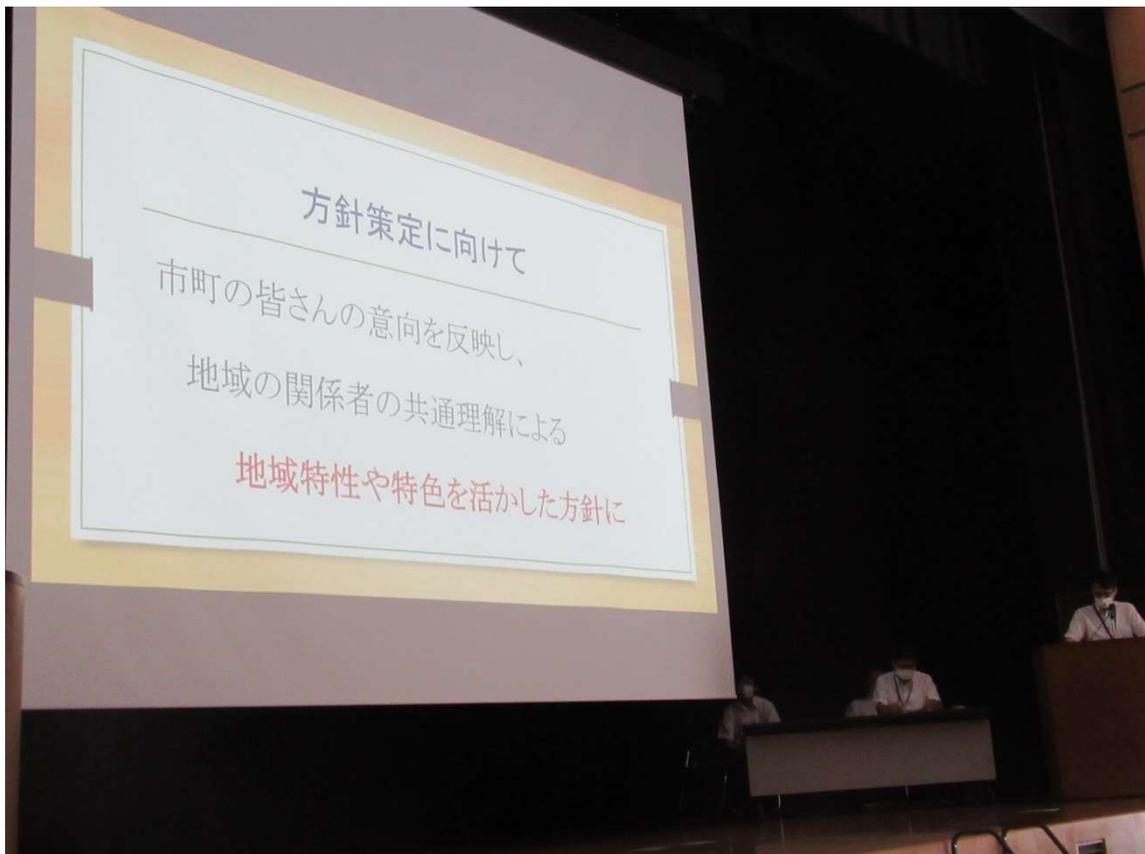
- 検討に当たっての参考（事例の特徴）
 - ✓森林整備量（面積）の増大
(これまで手入れが出来ていなかった箇所への対応)
 - ✓森林整備推進に当たっての課題に対応
(間伐等の実施のための路網の維持修繕、広葉樹林化)
(担い手を増やすための確保・育成策)

➤森林の有する公益機能の発揮への寄与

➤譲与額の増額を踏まえ、更に森林整備を進める必要

21

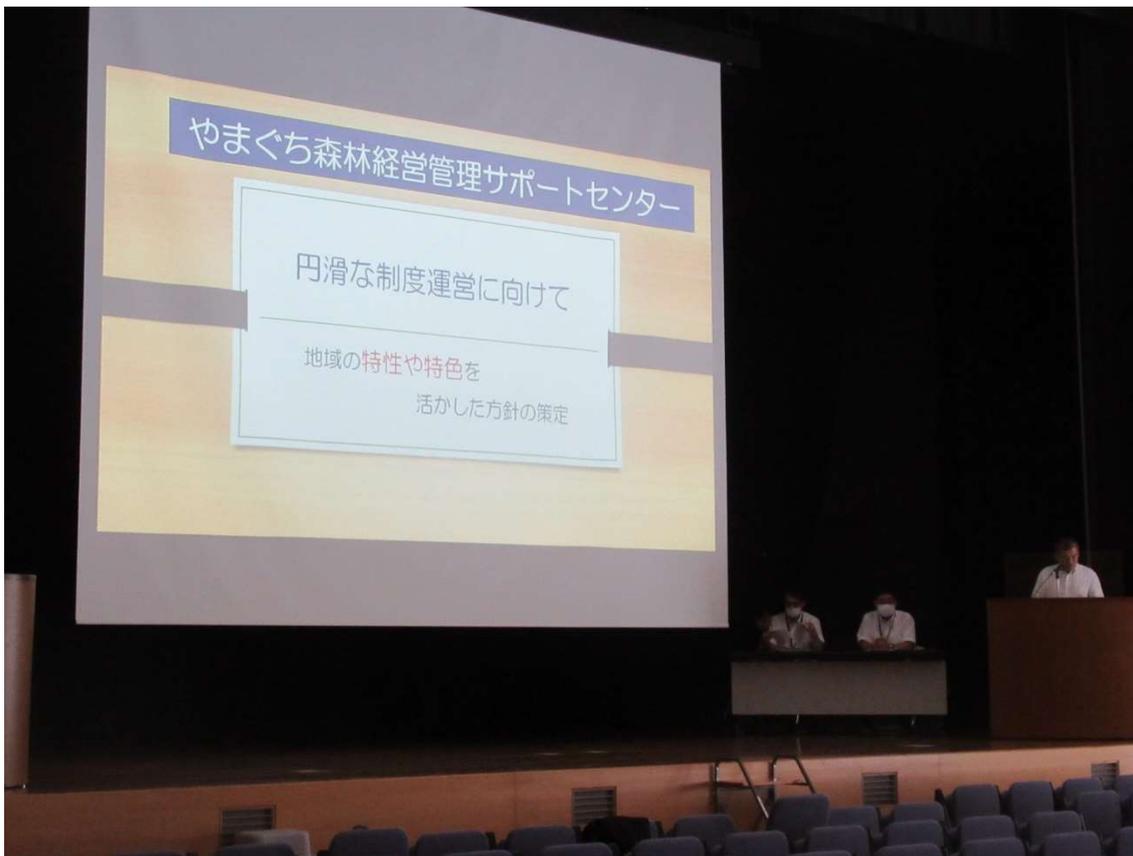
研修2 各種課題事例とその対処方法について（リモート講義／実況配信）



研修3 取組方針の策定に向けて（県森林企画課）



研修3 取組方針の策定に向けて（県森林企画課：笹井調整監）



研修3 円滑な制度運営に向けて（サポートセンター）



研修3 円滑な制度運営に向けて（サポートセンター：島谷アドバイザー）



研修3 航空レーザ情報の有効活用について（県森林企画課）



研修3 航空レーザ情報の有効活用について（県森林企画課：松村主査）